

# Windows Vista 時代の デバイス・ドライバ開発

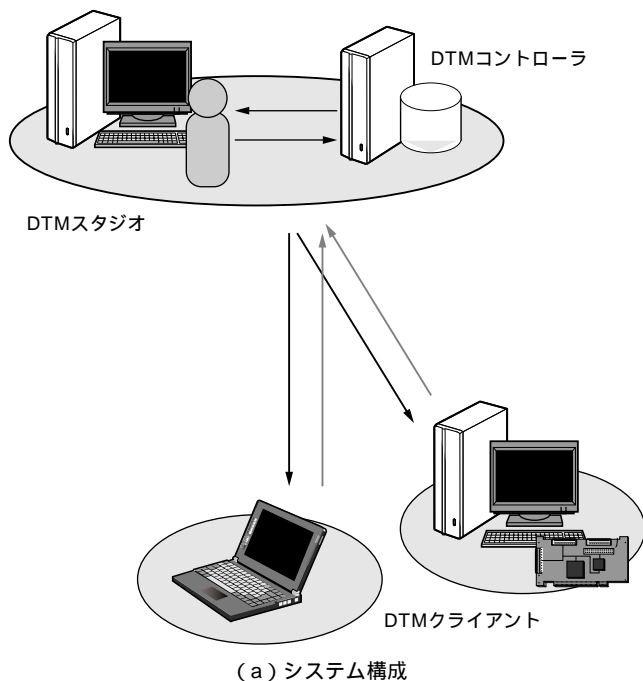
## 第10回 Windows ロゴ取得手順の変更部分とドライバ署名

日高 亜友, 川出 智幸, 相良 徹

2007年7月号, pp.179-183の連載第3回「Windows ロゴ取得手順(その1)」では, Windows ロゴ取得の手順としてDTMを紹介した。その後, DTMについて変更があったので, その部分について解説する。また, 本稿の後半ではデバイス・ドライバの署名について説明する。  
(筆者)

### 1. DTM インストールの変更部分

これまで, DTM(Driver Test Manager)はWDK(Windows Driver Kit)の中に含まれていましたが, 現在はWLK(Windows Logo Kit)という別のキットとして提供されています。WLKには, DTM, DTM 関連ソフトウェア, ドキュメント類など, Windows ロゴを取得するために必要なリソースが含まれています。



コンポーネント	機能
DTM コントローラ	テスト結果の管理
DTM スタジオ	DTM クライアント上でのテスト環境の設定
DTM クライアント	テスト対象のデバイスを接続したパソコンであり, 実際にテストを実行する

(b) コンポーネント

図1 DTM(Driver Test Manager)環境

WLKは, 下記のURLからダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/japan/whdc/devtools/wdk/WDKpkg.msp>

なお, ここで紹介するWLKのバージョンは, 以下のとおりです。

Windows Logo Kit 1.1 - Version#: 1.1.6475.000

おさらいとなりますが, DTM環境は図1に示す三つのコンポーネントから構成されます。

DTM環境では, それぞれの役割を持ったコンポーネントをインストールします。それぞれの導入手順とWindows

表1 Windows ロゴ申請に必要なテスト結果を取得するまでの一連の流れ

操作対象コンポーネント			操作内容
DTM コント ローラ	DTM スタジオ	DTM クライ アント	
			1. DTM コントローラのインストール
			2. DTM スタジオで使用するユーザの設定
			3. DTM コントローラより DTM スタジオのインストール
			4. DTM コントローラより DTM クライアントのインストール
			5. PREfast 実行ログを用意
			6. テスト用証明書ファイルを用意 (作成は DTM クライアント以外で行う)
			7. テスト対象デバイスのインストール
			8. Machine Pool の作成
			9. Machine Pool の設定 (カテゴリ, 使用ユーザなど)
			10. 作成した Machine Pool に DTM クライアントを移動
			11. Submission の作成
			12. テストの開始
			13. 実行状態の確認, テスト実施
			14. テスト・ログの確認
			15. Errata の適用。テスト結果に "FAIL" 項目があれば, 修正後に項目 12 へ

表2 DTMをインストールするためのOS環境

対応 OS	DTM コントローラ*1	DTM スタジオ	DTM クライアント*1, *4
Windows 2000 SP4 *2			
Windows XP SP2			
Windows XP x64 Edition SP2( IA64, AMD 64 )*3			
Windows Server 2003 SP1			
Windows Server 2003 SP2			
Windows Server 2003 x64 Edition SP1( IA64, AMD 64 )			
Windows Vista			
Windows Vista x64 Edition RTM( IA64, AMD64 )			

- \* 1 DTM コントローラおよびDTM クライアントは“ Designed for Windows ”のロゴを取得したコンピュータを使用する
- \* 2 Windows ロゴ・プログラムは終了しているため、独自テストの実行のみ可能
- \* 3 DTM スタジオは、IA64 をサポートしない
- \* 4 仮想パソコン環境はサポートしていない

がサポートを示す

ロゴ申請に必要なテスト結果を取得するまでの一連の流れを表1に示します。変更があった箇所は、「1. DTM コントローラのインストール」の部分です。以降では、この変更部分について説明していきます。

表2は、DTMをインストールするためのOS環境です。各コンポーネントを構築するにあたり、適切なOSを用意します。DTM コントローラのサポートOSとして、新たにWindows Server 2003 SP2が追加されています。

### DTM コントローラをインストールする

ダウンロードしたWLKを書き込んだDVDをセットすると、図2のような画面が表示されます。以前のDTMはWDKのインストールに付随していましたが、今回は専用のツリー構造に変更されました。

図2の画面において、対象となる「Logo Kit」と「Driver Test Manager」をチェックします。なお、DTM コントローラをインストールするには、付属の.NET Framework 2.0、およびMSDE(Microsoft SQL Desktop Edition)もイ

ンストールする必要があります。これらは、Driver Test Manager をチェックすることで、自動的にインストール対象になります。

「Microsoft Windows Logo Kit Release 1.1.6475.0 Setup」ウィンドウの[Apply]ボタンをクリックすると、右側のペインに表示された順番にインストールが開始されます。まず、.NET Framework 2.0とMSDEのインストールが行われ、続いてDTMのインストールになります。

DTM コントローラのインストールでは、使用許諾契約に合意することで、図3のインストール設定画面に移ります。ここで[Browse]ボタンをクリックして、インストール先を設定し、[Next]ボタンをクリックします。後はウィザードに従ってインストールを進めます。以前は選択項目がありましたが、本バージョンでは選択するものではありません。図4のようなインストール完了画面が表示されたら、作業は終了です。

各 Logo Kit をインストールする  
最後に各 Logo Kit をインストールします。Common Logo

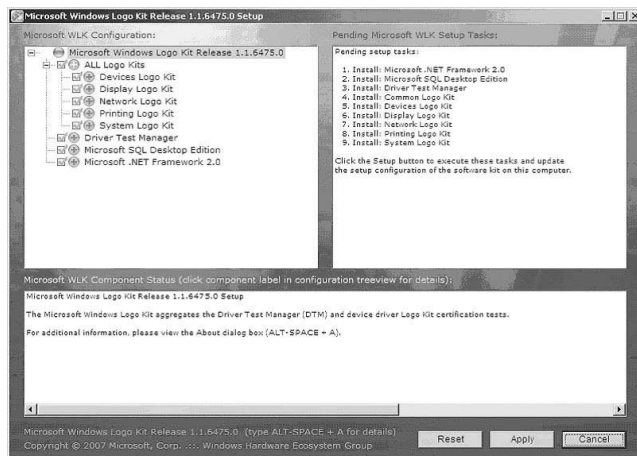


図2 DTM コントローラのインストール開始画面

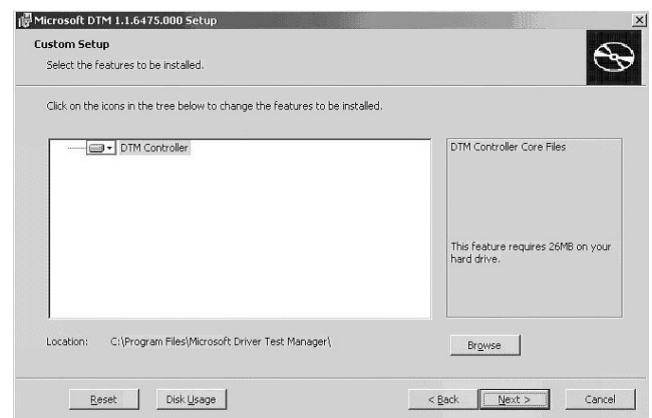


図3 DTM コントローラのインストール設定画面